

令和 6 年 第 3 回  
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和6年3月7日（木）

開会午後4時30分、閉会午後5時40分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番	坪池 宏	2番	黒田 卓	3番	大西 ゆかり
4番	村上 美也子	5番	牧田 和樹	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

理事・教育次長	水落 仁	教育次長	中崎 健志
参事・教育企画課長	福島 潔		
教育企画課課長（高校跡地活用・学校施設担当）		中家 立雄	
教育企画課課長（ICT教育推進担当）	小林 匠		
生涯学習・文化財室長	辻 ゆかり	教職員課長	板倉 由美子
教育参事・県立学校課長	番留 幸雄	小中学校課長	山尾 佳充
保健体育課長	大島 一恵		

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後4時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和6年2月15日開催の令和6年第2回富山県教育委員会会議録  
会議録閲覧  
荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第2号 博物館に相当する施設の指定に関する告示の件  
生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

- (1) 臨時代理について（令和6年2月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件）  
教育企画課長から説明した。
- (2) 第5回県立高校教育振興検討会議の開催結果について
- (3) 令和6年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について（令和5年12月末現在調査）
- (4) 令和6年度富山県立学校入学者選抜の志願状況等について  
県立学校課長から説明した。
- (5) 公立小学校の廃止について（富山市）  
小中学校課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

## 5 議決事項

午後5時15分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第3号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

### 議案第3号 教育職員の人事異動に関する件

教職員課長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第3号については、適切な時期に公表することを決定した。

## 6 議事

### ○議案第2号関係

〔牧田委員〕

・2つ教えてほしいのだが、まずこのギャラリー・ミレーを博物館に相当する施設に指定する際の委員会か審議会の構成を教えてほしい。もう一つは登録要件に学芸員相当職員の必置とあるが、相当職員の基準はどのようなものか。

〔生涯学習・文化財室長〕

・博物館に相当する施設に指定する件については、博物館法に規定している要件を项目的にチェックして、満たしているものを指定するものだ。文化財の登録では審議会等の意見をいただくことがあるが、相当施設については指定要件を満たすものをチェックして指定するという手続きだ。

・登録博物館の方は有資格者、学芸員を置くが、それに相当する職員ということで、専門性があるとか、例えばお寺の収蔵物について説明ができる方なども、力量によっては相当職員に該当する。

〔牧田委員〕

・基準はあるのか。

〔生涯学習・文化財室長〕

・文化庁で研修をやっている、その研修を受けていることなどから相当職員と判断した。

### ○報告事項(3)関係

〔牧田委員〕

・就職内定率が全国1位なのはいいのだが、可能なら内定した企業を3年以内に離職したかどうか教えてほしい。就職はしたがその就職先と本人とで何らかのミスマッチが起きているとなると、それは進路指導が教育的な立場から満たされていないのと同じになってしまう。就職指導の先生が就職率を上げることにこだわると、結局子どもたちが犠牲になってしまうのではないかと。もちろん正規雇用に対して一生懸命になっている学校もあるが、そのところを子どもたちが心底理解していないところがある。私の会社でも工業高校を卒業した学生を受け入れているが、残念ながら3年以内に離職する確率は低くはない。今までのように就職できたからOKということではなくて、これからは就職した後になんかどうなったかということまでをちゃんと見て就職指導をしていかないと、本当に子どもたちのためになっているかどうかかわからないのではないかと。

・もうひとつ受検についてだが、定員と志願者数の差をみると、理屈上、県立高校を受けて落ちる子は100人ぐらいしかいない。落ちた子は私立に行くと思うのだが、公私比率を考えると私立は定員を満たさない状況になっていく。そうなるとう受検制度そのものは学力テストをやったときに、相対的に合格者を決めるのか絶対的に合格者を決めるのか、どのような方針で入学者選抜をやっているのか教えてほしい。

〔県立学校課長〕

・離職率については、富山労働局のデータによると平成28年卒業生つまり3年後の平成31年までのデータと平成29年度以降つまり令和2年までのデータでは、おそらくコロナの影響があり違いがある。平成28年度までは全国が40%、富山県が30%、平成29年度以降は5%減って全国が35%、富山県が25%という状況だ。

・受検については、倍率が高いところも低いところもあるので、高いところは二次募集に回るかあるいは私立に行くということだ。今は割と中学校ではこれまでと違って、入れるところではなく行きたいところを選ぶ

傾向にあることから、差が出てきているということが言える。合格については成績も調査書もあるのでそれらを相関させながら同等に見て全体を見ていく。基本的には定員内であれば合格ということもあるが、3年間ちゃんと耐えていけるかという部分も見ながら合否を決めている。

〔牧田委員〕

- ・その基準はアドミッションポリシーに基づいているのか。

〔県立学校課長〕

- ・これまでの傾向等を見ながら各学校で適正に判断されている。

〔教育長〕

- ・一定程度の基準は各学校なりの考えがある。

## ○報告事項(2) 関係

〔坪池委員〕

- ・県立高校教育振興検討会議の件で、大規模校にも中規模校にも小規模校にもそれぞれメリットがあるという意見があったが、実際には受検状況を見ると中学生がどんな高校を求めているのかが大体分かるのではないかと思う。このデータをもとに規模の視点から分析をする際には、各学校にはそれぞれ事情があるので過度の一般化には配慮しながらやっていく必要がある。同時に他県はどうなのかということも見ていく必要があるのではないか。福井、石川、富山の3県はあらゆる意味で教育については類似性が強いと思う。例えば福井県の藤島高校は8クラスで募集をしている。募集定員全体の規模から行くと福井県は富山県よりも少ないと思う。同じように石川県は募集定員の規模は富山県よりは大きいですが、泉丘高校は10クラスで募集をしている。福井も石川も定員が多いだけでなく、倍率も高い。どうしてこうなっているのかということも分析しながらやったほうがいい。全国的な動きとして、入れる学校よりも行きたい学校を選ばせるように指導しているが、福井、石川、富山は事情が違うように思う。そのあたりも考えてもらって、今後の再編あるいは各学校の教育内容等にも参考にしてもらいたい。中学校は学力についてそういう指導はしていないので、そうなっているという風に私は言っているわけではないので誤解のないようにしてほしい。

〔大西委員〕

- ・主な意見の中にあつた、現在の中高一貫教育校では受検のための勉強をするような学校が多い、そうではなく、地域に視点を置いた中高一貫教育校を設置することがひとつの方法になると思う、というのはおそらく市町村が設置している中学校と県立高校を中高一貫校にするという考え方だと思うが、これは1月18日の市町村長と教育長との意見交換会で出てきた意見か。それとも委員の方からの意見か。

〔県立学校課長〕

- ・委員からの発言だ。

〔大西委員〕

- ・今の段階でこういうことを意見として持っている市町村長はいたのか。

〔県立学校課長〕

- ・具体的には聞いていない。

## ○報告事項(5) 関係

〔村上委員〕

- ・小学校が合併されるということだが、子供の足で何分ぐらいかかるのか。それともスクールバス等で登校するのか。

〔小中学校課長〕

- ・富山市の方ではスクールバスで通学することを考えている。

〔村上委員〕

- ・安全にお願いしたい。

## ○その他

〔黒田委員〕

- ・中高一貫校の話だが、金沢錦丘高校がだいぶ前から取り組んでいて、高校受検をなくすことで中学校の時代から関係学習等に非常に熱心に面白い取り組みをしているので、そういったものも参考になると思う。中高一貫校だから地域と連携してとか、連携した方がいい場合もあるが、しなくてもいい場合もある。富山県の高校の中には職業科が結構あったりするので、意見の中にもあったが大規模校、小規模校といろんな学校があるが、大事なのはそこで何をやるかということだ。高校の方にどんな学校を作りたいということをしっかり考えてもらって、それに対して設置場所の市町村がこういう形でサポートします、一緒に頑張りましょう、という風にならなければ、数字合わせになると問題になると思う。

〔教育長〕

- ・中高一貫校にすることが目的ではない。それで何を指すかが大事だ。

〔牧田委員〕

- ・国際バカロレア認定校について反対の意見が挙げてあるが、さいたま市立大宮国際中等教育学校の校長の話聞いたが、所謂エリート校として県立の中高一貫校を設置しているところは全国にあるか。

〔教育長〕

- ・ある。茨城県とか千葉県とかに視察に行っている。

〔県立学校課長〕

- ・良い点も悪い点もある。

〔牧田委員〕

- ・そういう前例があって、良い点と悪い点が明確になっているのであれば、悪い点を良い点に変えていけば、より良いものができるのではないか。悪い点があるから駄目だということではない。

午後5時40分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。